苫小牧市長　岩倉 博文 様

2020年12月18日

苫小牧市見山町1丁目8-23
勤医協苫小牧病院
院長　宮崎　有広

笑顔あふれるふくしのまちづくりに関する要望書

日頃から医療・介護・福祉活動等、市民の暮らしを考える市政を運営いただき敬意を表します。2014年4月の開始から7年目を迎えた無料低額診療制度の院外薬局における一部負担金の苫小牧市の助成制度は、今もなお対象となった多くの患者さん、ご家族の皆さんから感謝と喜びの声が寄せられております。本当にありがとうございます。引き続き、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

さて、今年度は以下 2 点について要請・懇談を行いたく宜しくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

記

1．健診受診者の拡大にむけて

苫小牧市では、健診の受診者拡大に向けて国保加入世帯を中心に「タダとく健診」や「プレ特定健診」、「GOGO 健診」など受診券の配布や呼びかけに力を入れており、健診受診率では道内でも先進的な自治体となるなど、日頃よりご尽力いただき感謝しております。

一方、当院では、昨年度慢性疾患で通院している生活保護の患者 2 名が進行大腸がんと診断され、それぞれ数年間大腸がん検診を受けていないことが分かりました。これをきっかけに今年度は、当院通院中の40歳以上の生活保護患者に、順次大腸がん検診をお勧めしながら、11月末現在で45名が検診を受け、うち8名が陽性（陽性率17.8%）結果となっています。

検診を実施する受託医療機関として、定期的な検診受診で早期発見・早期治療に結び付けていくために、検診の案内や受診券の配布について生活保護を受給されている方々に対しても国保加入世帯と同様に取り扱いいただきたく要望致します。

2．感染症の対策に係る医療支援について

昨今、全国的に新型コロナウイルスの感染が広がるなか、北海道でも札幌市を中心に感染拡大に歯止めがかからない事態となっています。こうした中、苫小牧医師会では発熱検査センターを開設し対応・対策の強化をすすめておりますが、自力で受診可能な方に限られている事や、週末の対応ができない現状となっています。車もなく自力で受診する事が困難な住民をどのように検査につなげるのか行政としても是非、検討をお願いしたいと考えます。

また、発熱や風邪症状がある場合は、受診前にかかりつけ医に相談したうえで受診し、検査等を行う事とされていますが、かかりつけ医を持たない患者や直接来院される患者も少なくなく、発熱外来開設の有無に関わらず、医療機関では長期的に通常以上の体制確保、徹底した感染対策が求められています。一方、感染拡大における受診控えも加わり患者の大幅減も深刻で、公的役割を担う医療機関の経営は大変厳しい状況に置かれています。医療崩壊を避けつつ市民の健康を守るためにもあらためて、政府による医療機関への財政支援強化を苫小牧市からも要望していただきたく、さらに市独自の支援についても是非検討をお願いしたく要望いたします。　　以上